

大 秦 双 ヶ 岡

名勝「雙ヶ岡」を歩く 古墳めぐり

古代から平安時代初期に、秦氏の活躍した太秦（うずまさ）地域には多くの古墳が残されています。特に名勝「雙ヶ岡」（ならびがおか）には大きな古墳や群集墳も残され、周辺からも貴重な埋蔵文化財が数多く発掘されています。

双ヶ岡周辺にある遺跡を中心に、風光明媚な景色を楽しみ、多くの文化財が点在する太秦・双ヶ岡地域の古墳を巡ります。



名勝雙ヶ岡 一の丘より仁和寺を望む

御室 仁和寺
光孝天皇が発願し、888年に宇多天皇によって完成。皇室とゆかりが深く、出家後の宇多法皇の住居であったことから「御室御所」とも呼ばれました。本尊「阿彌陀如来」とそれを安置する金堂等の国宝を始め多数の重要文化財があり、1994年世界遺産に登録されました。



仲野親王高阜墓
この地域最初の首長墓と考えられる、全長約75mの前方後円墳。その丘陵を利用して、桓武天皇の第12皇子 仲野親王の陵墓が新たに造られたといわれています。



光孝天皇陵
平安時代前期の光孝天皇（在位 884～887）の陵墓。光孝天皇は仁明天皇の第3皇子で、陽成天皇の後、55歳で即位されました。



石室の見学は管理者にお申し込み下さい

史跡蛇塚古墳
古墳時代後期に築造された前方後円墳（円墳との説もあります）。現在は30数個の巨石などを積み重ねた、京都府内最大級の横穴式石室が残っています。かつて石室内に蛇が多く棲息していたことから蛇塚と呼ばれ、双ヶ丘1号墳とほぼ同時に造られた、最後の首長墓と考えられます。



尾形乾山窯跡（法蔵禅寺）
江戸中期の陶芸家 尾形乾山（尾形光琳の弟）の窯跡。この地が都の西北（乾）にあたることから、乾山と号しました。



御堂ヶ池21号墳
かつてこの辺りに20数基あった「御堂ヶ池古墳群」。その21号古墳の石室が、ここに移築されています。



福王子神社
光孝天皇の女御班子（はんし）を祀る神社。班子は宇多天皇の母で、多くの皇子皇女を生んだことから、福王子神社と呼ばれ、仁和寺の鎮守とされます。



史跡天塚古墳
6世紀前半の築造の前方後円墳。横穴式石室が3基ある特異なもので、この地域で最も古い古墳の形状を残しており、首長であった秦氏の墓と考えられています。



0m 100 200 300 400 500m

史跡天塚古墳
境内には日本映画の父と呼ばれた牧野省三の碑が建てられています。

三吉稲荷
境内には日本映画の父と呼ばれた牧野省三の碑が建てられています。

太秦の名の由来
太秦という地名は、朝鮮半島から渡来したとされる秦氏が朝廷に絹などの織物をうす高く盛り上げるほど献上したことにより「菟豆麻佐（うずまさ）」の姓を与えられ、これに「太秦」の漢字表記を当てたとされています。

太秦 広隆寺
603年、秦河勝（はたのかわかた）が聖徳太子から賜った仏像を本尊とし、蜂岡寺を建立したことに始まる寺院。霊宝殿には、太子から賜った国宝第1号の「宝冠弥勒」と、泣き弥勒ともいわれる「宝冠（ほうくがい）弥勒」、二体の弥勒菩薩半跏思惟像（国宝）があります。また、聖徳太子建立七ヶ寺の一つでもあります。



一の丘（一号墳）
一の丘頂上には直径44mの大きな墳丘と巨石の横穴式石室があり、この地域で最後の首長墓といわれています。石室の開口部から嵯峨野地域が一望できることから、秦氏の長の墓と考えられています。

名勝雙ヶ岡 一の丘からの眺望
南北に連続する三つの峰からなる古生層の孤立丘。最も高い一の丘は標高116mあり、この地域を一望できます。

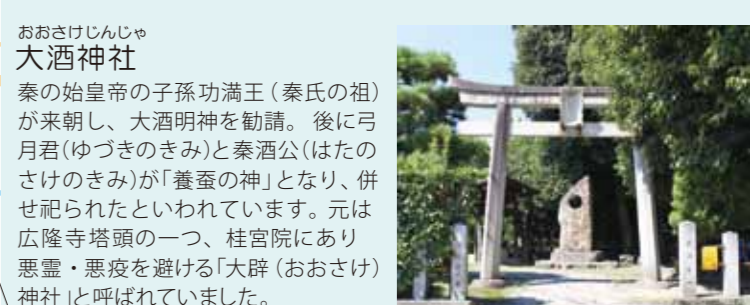


二の丘（群集墳） 三の丘（群集墳）



五位山（上）と青女の滝（左）

法金剛院
平安時代の初め、右大臣 清原原野（きよはらのなつの）の山荘を寺院にし、双丘寺と称したのが始まり。平安時代末期の姿をとどめた池泉回遊式浄土庭園には巨石が積み上げられた「青女の滝」があり、背後の貴族の位を授かった内山（五位山）とともに国の特別名勝に指定されています。



おおさけじんしゃ 大酒神社

秦の始皇帝の子孫功満王（秦氏の祖）が来朝し、大酒明神を勧請。後に弓月君（ゆづきのみ）と秦酒公（はたのさけのみ）が「養蚕の神」となり、併せ祀られたといわれています。元は広隆寺塔頭の一つ、桂宮院にあり悪霊・悪疫を避ける「大辟（おおさけ）神社」と呼ばれていました。

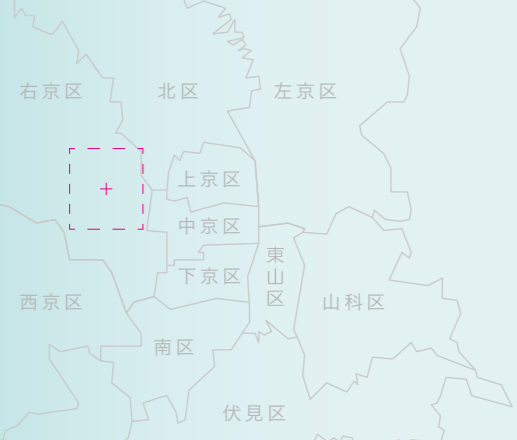


このしまにますあまてるみたまじんしゃ 木嶋坐天照御魂神社

通称「蚕の社」と呼ばれ、養蚕・機織・染色にすぐれた技術を持っていた秦氏の氏神であった古社。本殿右にある摂社「養蚕（こかい）神社」は機織の祖神を祀り、今も製糸業者から信仰されています。また境内左奥には明神鳥居を正三角形に合わせた三ツ鳥居があり、その中心には組石上に御幣が立てられています。（京都市指定史跡）

三ツ鳥居

太秦 双ヶ岡



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・財団法人京都埋蔵文化財研究所

太秦 双ヶ岡周辺の発掘調査

5世紀後半以後、秦氏の活躍の拠点となる蜂岡寺(いまの広隆寺)周辺の太秦蜂ヶ岡を囲むように、前方後円墳や円墳が相次いで造られました。

そして、6世紀後半から7世紀前半に至ると、嵯峨野北部の山麓一帯には200基近い円墳と方墳が、爆発的な勢いで成立していきます。中でも双ヶ岡には秦氏の首長の墓と推測される大型の円墳や群集墓がみられます。双ヶ岡周辺で発掘調査された古墳や遺跡から、この地域の豊富な土の中の文化財をご紹介します。

1 御堂ヶ池古墳群

山中に20数基からなる円墳が点在しています。



1号墳発掘調査時の写真

2 史跡 仁和寺御所跡

仁和寺御室会館の建設に伴い行った発掘調査で平安時代中期の建物、雨落溝等を発見しました。建物は八角御堂とも呼ばれた円堂院僧坊と推定されます。その他、緑釉瓦や近世の「仁清」壺等が出土しています。



4 音戸山古墳

円墳14基、方墳3基からなり、西と東の支群に分かれます。東支群にある方墳は、終末期(7世紀初め)のものと考えられ、この地域の最後の古墳です。東支群5号墳石室からは二上山産の凝灰岩製家形石棺の破片がみついています。また、平安時代前期の灰釉製陶器の壺もみつっており、この時期には石室が開閉状態であったと考えられます。



5 巽古墳(1号墳)

昭和61年、市民からの連絡によって調査を行った結果発見されました。墳丘は破壊されていましたが、大型の石室の一部と石棺の欠片を発見し、金銅製の馬具や須恵器の裝飾付器台等、優れた副葬品を有することから、この地域での有力な古墳と考えられます。



6 双ヶ岡一号墳

直径44m、高さ8mの大規模な円墳。横穴石室。古墳時代後期に築かれた24基の古墳が点在する双ヶ岡古墳群の中でも最も規模が大きく、これ以外は直径10～20mの小規模な円墳です。



7 仁和寺院家跡

双ヶ岡を挟んで、東西に70ヶ所あまりの院家が建ち並んでいました。平成13年の発掘調査では、双ヶ岡の東側で「池上千手堂」と推定される御堂跡が発見されました。同様にその西側の井戸から、平安時代後期の直径1.48mと1.44mの車輪と、外輪7枚を発見しました。



8 常盤御池古墳と仁和寺院家跡

双ヶ岡の西側でも発掘調査により院家跡を発見しています。この調査では、同時に円墳の一部も発見されました。この円墳は古墳時代後期のもので、この地域では最も早く出現した群集墳の一つと考えられます。墳丘は直径20mの円形で、横穴石室の規模は玄室長4.7m、高さ1.8m、羨道長3.8m、幅0.9mの片袖式です。また、平安時代後期の礎石建物は礎石据付跡を13個みつけ、東西5間、南北4間の南北庇付きの建物と推定できます。調査地一帯は「大聖院」の故地と推定されており、これを構成していた建物と考えられます。



9 法金剛院旧境内

現存する法金剛院および五位山は、造営当初の当院の北半分にあたり、実際には東西2町、南北3町の広大な敷地を有していました。現在の宇多川が御室川に合流する手前で、北から西に流れを変える辺りが、法金剛院の当初の東南隅と考えられます。発掘調査により、塔跡や建物基壇、中門廊、池の洲浜等がみついています。いずれも平安時代後期のものです。



10 村ノ内町遺跡

太秦自動車教習所を挟んで南北に広がる遺跡で、弥生時代の集落跡と考えられていましたが、近年の発掘調査では、古墳時代後期～飛鳥時代の竪穴住居が数多くみついています。また、縄文時代中期の遺物も出土しており、古くからの人の営みがあったと考えられるようになりました。



11 常盤東ノ町古墳群

昭和51年の調査で6世紀末から7世紀にかけての3基の円墳を発見し、その後の発掘調査でも石室の一部をみついています。平野部にある群集墳で、周辺には未だに埋まっているものもあると思われます。



12 安井西裏瓦窯跡

平安京の北西隣接地で3基の瓦窯を発見しました。平安時代中期のもので、一番新しいものは焚口から焼成室まで、ほぼ完全な形で残っていました。この時期のものは通常、半地下式の平窯ですが、この窯は地上式のものでした。この窯の下に一時期古い窯もありましたが、窯全体を保存することから一部の調査のみで埋め戻し、地下に保存されています。



13 上ノ段町遺跡(蜂ヶ岡中学校)

蜂ヶ岡中学校内の数回の発掘調査で、古墳時代後期の竪穴住居10棟、掘立柱建物4棟、平安時代の建物や木棺墓等も発見しています。また、縄文時代早期の遺物も出土しており、この地域に早くから人が住んでいたことがわかります。



14 広隆寺旧境内

創建には諸説ありますが、調査では古墳時代～飛鳥時代の竪穴住居等を発見しました。また、築地跡、平安時代の鑄造(梵鐘)遺構も発見しています。



15 弁天島経塚

広隆寺旧境内弁天池の、直径12mの中島上に15基以上の経塚が造られていました。経塚の内部からは、遺物も多数発見されています。経塚の一部は、広隆寺境内に移築されています。



16 和泉寺部町遺跡

壺の社の北西に位置する場所で、弥生時代中期から古墳時代中期にかけての竪穴住居を22棟発見しました。特に古墳時代中期の1号住居からは韓式系土器や初期須恵器といった遺物が出土しており、この地域に渡来した人々の実体を解明する手がかりとして注目されます。



17 史跡 木嶋坐天照御魂神社(壺ノ社)境内

調査では、弥生時代後期から古墳時代初期のもの(和泉寺部町遺跡)と、史跡木嶋坐天照御魂神社(壺ノ社)の遺構が発見されました。壺ノ社のもとは、石敷遺構と泉があり、泉からの湧き水を溝によって南に流している様子がわかりました。

